

環境園芸学科カリキュラムポリシー

環境園芸学科は、卒業認定・学位授与の方針に掲げた資質・能力を身につけるために、学科科目等を体系的かつ系統的に編成し、学生が主体的・協働的に学ぶ意欲・態度を育成します。

1. 学習方法・内容

1-1. 学習方法

- (1) シラバスに記載された授業の進め方や授業時間外の学修に沿って、能動的な学習を進めます。
- (2) 講義・演習・実習・実験科目、ゼミナール活動等におけるグループワーク、ディスカッション等を通して、他者と協調・協働し自ら学ぶ時間を設定します。

1-2. 学習内容

(1) 教養科目

「ベーシックスキル科目」は諸分野の基礎的科目が設定され、さらに「教養教育科目」には「人間と文化」「生活と制度」「現代と科学」「外国語」「保健体育」の領域が設定されており、主に1～2年次に履修します。これらの履修により、持続可能な循環型社会の実現に向けた世界的な取り組みや活動を理解し、園芸・造園・自然環境にかかわる専門職業人として求められる知識・技術・能力の育成を図ります。具体的には、多様化する社会や文化の理解や高い倫理観などを身につけるために、哲学、美術史、社会学、日本国憲法などを修得します。また、自然科学・生命科学の基礎となる生物学、物理学、情報処理などの科学的根拠に基づいた基礎的な知識を修得します。

(2) 専門教育科目

「専門基礎科目（専門基礎分野）」は主に1～3年次に履修し、専門教育の最も基盤となる環境園芸概論、環境科学、生命科学、植物資源科学、技術者倫理、環境園芸実験実習を学び、「食・緑・人」を基盤とした環境園芸の専門家として、常に自己研鑽に努め、自らの可能性を高め続けられる能力を育成します。

「専門教育科目（専門分野）」は主に2~3年次に履修し、園芸学分野（園芸生産環境専攻、植物バイオ・育種専攻）、造園学分野（花・ガーデニング専攻、造園緑地専攻）、自然環境分野それぞれの専門科目を配置しており、それぞれの専門分野の領域を深め現代的課題に即した実践力を身につけると同時に、他分野の専門科目を履修し、幅の広い視点に立った知識・技術、能力の育成をはかることが可能です。

(3) キャリア形成科目

学生の職業的・社会的なキャリア形成に向けて、4年間を通して「キャリア形成科目」を展開しています。主な科目としては、1年次に、「フレッシュマンセミナー」「キャリア入門」（教養科目）、3~4年次にはそれぞれの分野毎にキャリア形成に向けた専門科目を配置しています。環境園芸学科では、樹木医補や測量士補、RLA補など、履修要項に従い所定の単位を修得すれば卒業と同時に取得できる資格も数多く設定されています。

(4) 卒業研究/専攻演習

主体的な研究態度ならびに研究の進め方を学び、科学的・論理的思考力の修得に向けて、卒業研究を必須としています。入学時から3年次までに学んだ知識や専門的技法を応用して、実践的かつ専門的な知識体系に基づく論理構築力や科学的探究力を培います。

2. 学習成果の点検・評価

(1) 各科目の学修成果

大学共通の基準(S~D評価)で評価を行います。各科目の評価基準はシラバスに明記し、学修成果を点検・評価し、単位認定を行っています。

(2) 短期的な学修成果

履修状況を的確に把握しながら、適切な学修支援に努めます。学生の成績は単位修得状況・GPA等により管理し、担当教員による面談を実施し、定期的に点検・評価します。学習上の問題が懸念される学生には、助言・指導を行います。教育方法については、学生による授業評価アンケート結果等を踏まえて、授業改善を行います。

(3) 卒業時の学修成果

4年間の学修成果については、所定の単位を修得したことをもって本学の教育目標を達成したと判断し、学位を授与するものとします。

